

2016年10月18日

**各市町の取り組み状況に応じた  
シミュレーションの分析結果について**

# 基本条件の更新

■ヒアリング結果等に基づいて、広域避難の実施以外の基本的な条件を更新した。

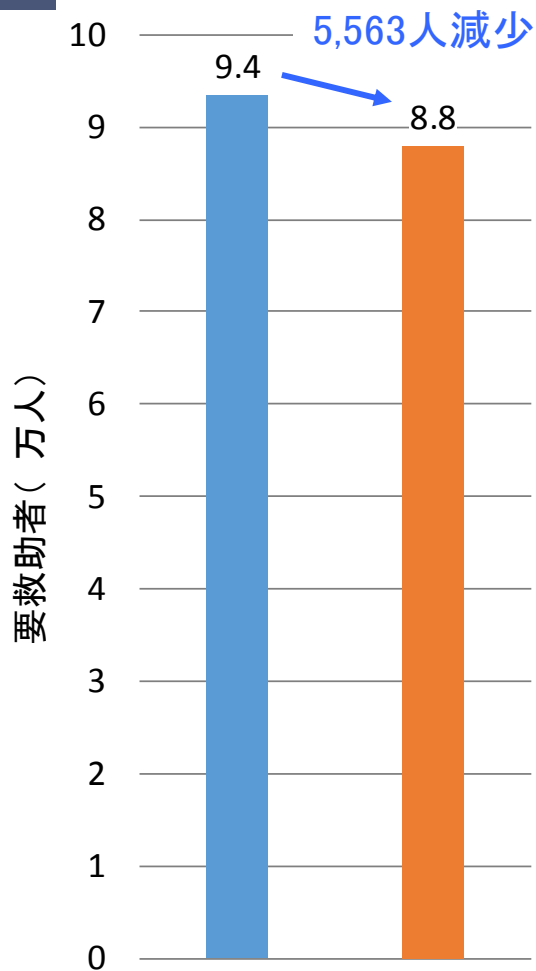
市町	更新内容
桑名市	<ul style="list-style-type: none"><li>揖斐川右岸の低平地に屋外拡声器を増設(77基→87基)</li><li>緊急速報メールによる情報伝達を追加(50.2%)</li></ul>
木曾岬町	<ul style="list-style-type: none"><li>戸別受信機を増設(1948世帯→1969世帯)</li><li>避難施設の収容人数を更新(16施設、3315→16施設、5719人)</li><li>避難支援バスを増設(3台→4台)</li><li>緊急速報メールによる情報伝達を追加(50.2%)</li></ul>
弥富市	<ul style="list-style-type: none"><li>避難支援バスを精査(10台→9台)</li><li>緊急速報メールによる情報伝達を追加(50.2%)</li></ul>
海津市	<ul style="list-style-type: none"><li>広報車の台数を精査(9台→3台) ※消防車両による広報に切り替え</li><li>避難施設の収容人数を精査(26施設、40,071人→26施設、26,720人)</li><li>避難支援バスを増設(11台→14台)</li><li>緊急速報メールによる情報伝達を追加(50.2%)</li></ul>
愛西市	<ul style="list-style-type: none"><li>屋外拡声器を増設(36基→115基)</li><li>防災行政無線のデジタル化に伴いアナログの戸別受信機廃止</li><li>広報車の台数を増設(16台→28台)</li><li>避難施設を増設(54施設、43,217人→58施設、58,075人)</li><li>避難支援バスを精査(7台→7台)※構成内容を変更</li><li>緊急速報メールによる情報伝達を追加(50.2%)</li></ul>

※緊急エリアメールによる情報取得率(50.2%)は、携帯電話の保有率や既往調査の結果から設定した。

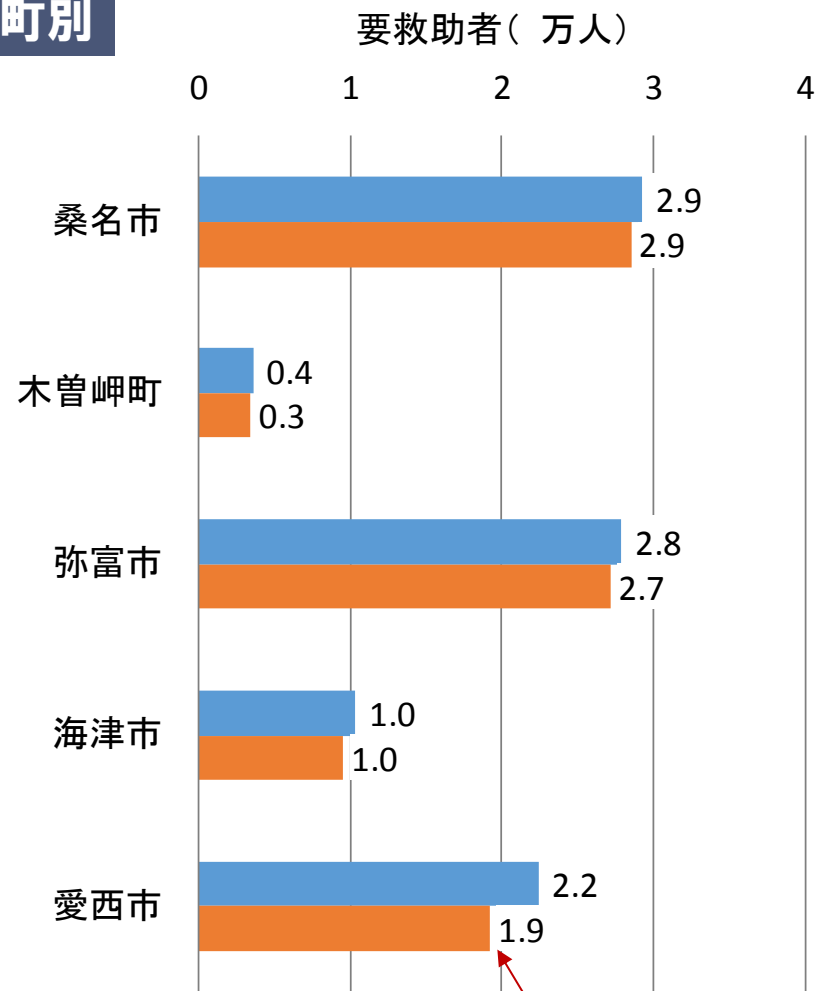
# 基本条件の更新による現状再現シミュレーションの変化

- 基本条件の更新により、主として情報伝達環境の改善により全体的に要救助者が低減した。

## 全体



## 市町別



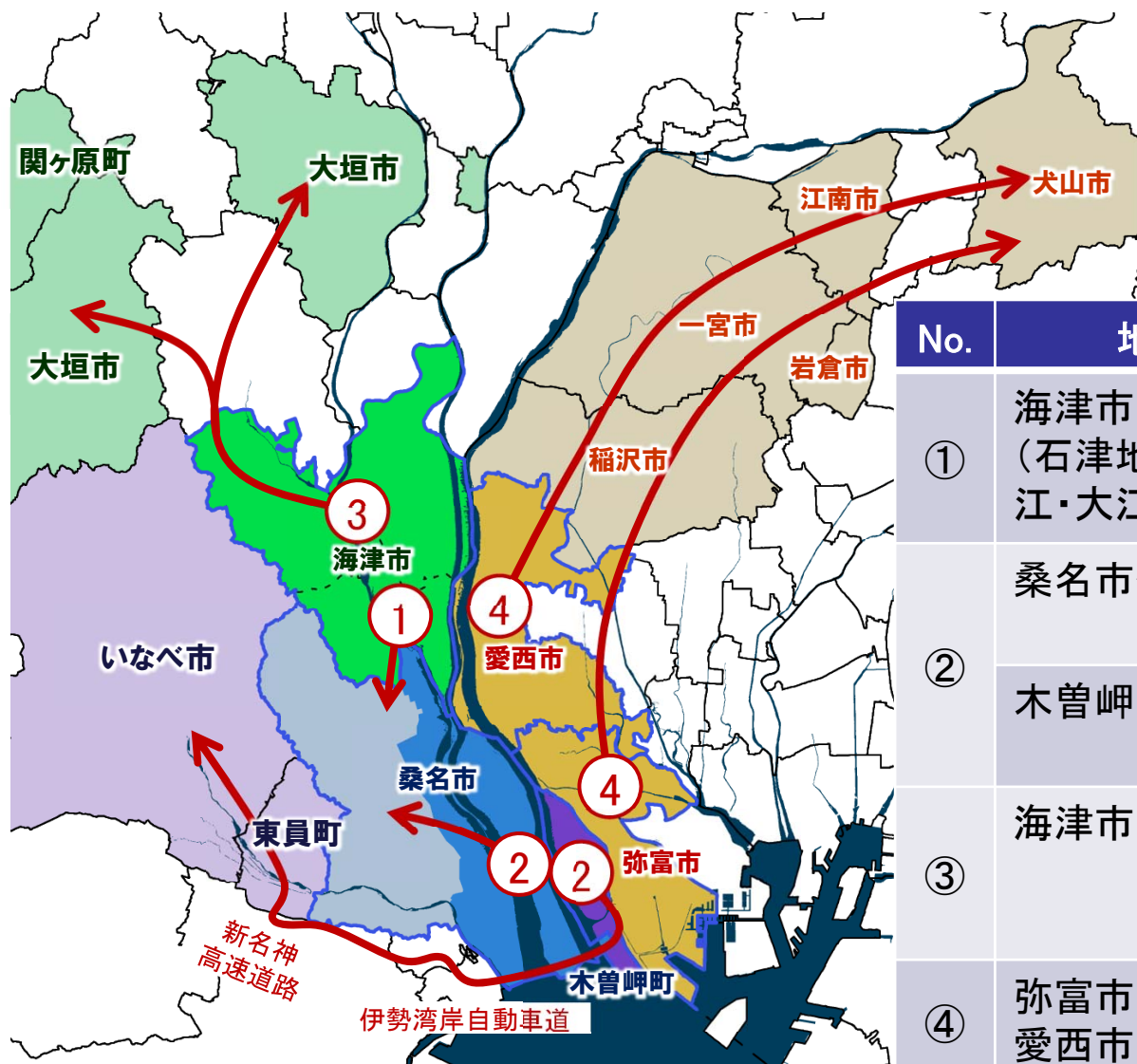
基本条件更新前(犠牲者ゼロシナリオ)

基本条件更新後

避難所の増設も影響

# 広域避難の設定

■ 各市町の避難協定や避難計画に基づいて、広域避難先に関する条件を設定した。



No.	地域	広域避難の設定
①	海津市 (石津地区、西江・大江地区)	海津市による桑名市での洪水時緊急避難先の確保を反映
②	桑名市低平地	桑名市の市内低平地から高台への避難計画を反映
	木曾岬町	桑員地域の2市2町の相互応援協定を反映
③	海津市	原子力災害時を対象とした大垣市、関ヶ原町との避難協定を反映
④	弥富市、愛西市	西尾張9市による災害時応援協定を反映

# 事例1 広域避難先の具体化

## 海津市、桑名市 洪水時緊急避難時の広域避難先の具体化

**海津市**  
・大江地区、西江地区、石津地区



### 【広域避難先】

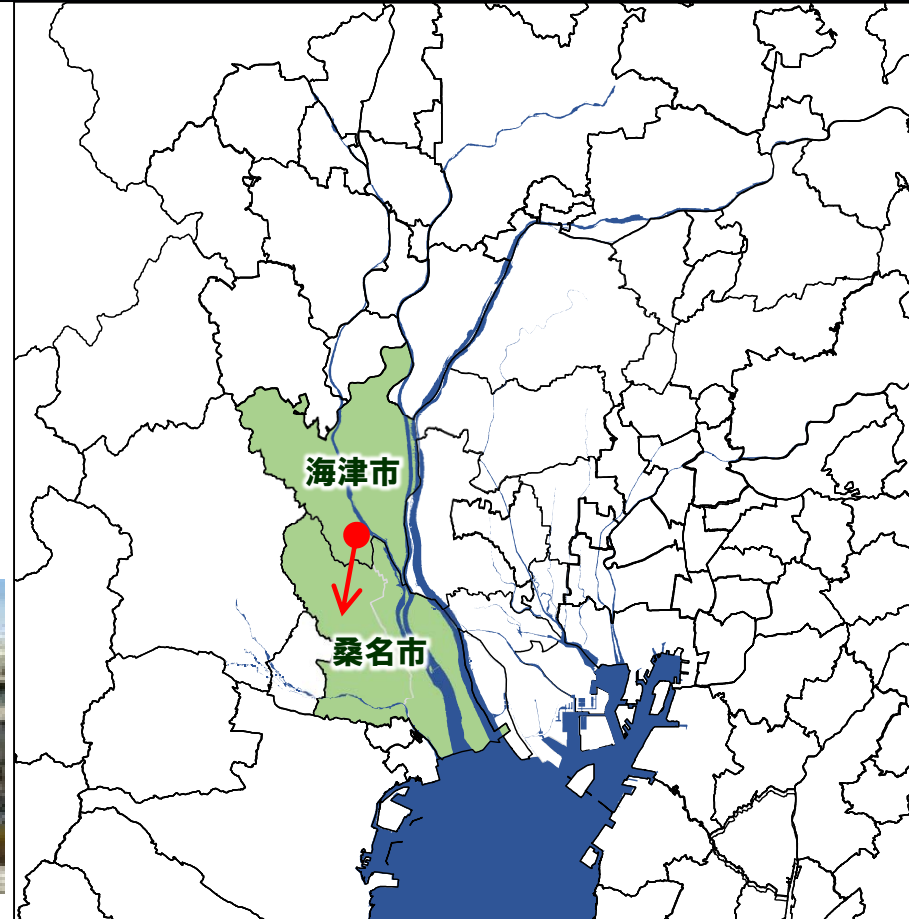
**桑名市**  
・多度中小学校、多度公民館



多度中小学校



多度公民館



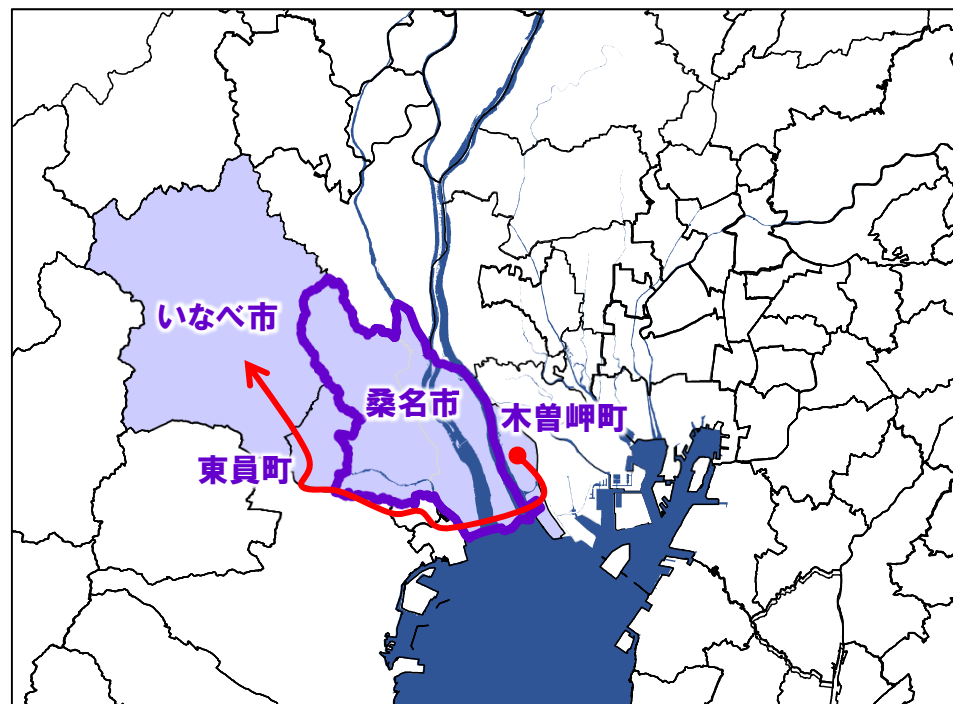
### シミュレーション上の設定条件

- 海津市の大江地区、西江地区、石津地区の住民は、桑名市の多度中小学校と多度公民館へ広域避難する。

## 事例2 広域避難先の確保に向けた取り組み

### 桑名地域2市2町の相互応援協定に基づき、広域避難先の確保に向けて前進

- 三重県桑名地域防災事務所の協力もあり、新たに広域避難に特化した協議を行う予定
  - 桑名市は自市内で完結の方針
  - 木曾岬町は、今後高速道路(新名神高速道、東海環状自動車道)が開通すると東員町、いなべ市へのアクセスが格段によくなるため、有力な避難先となる。



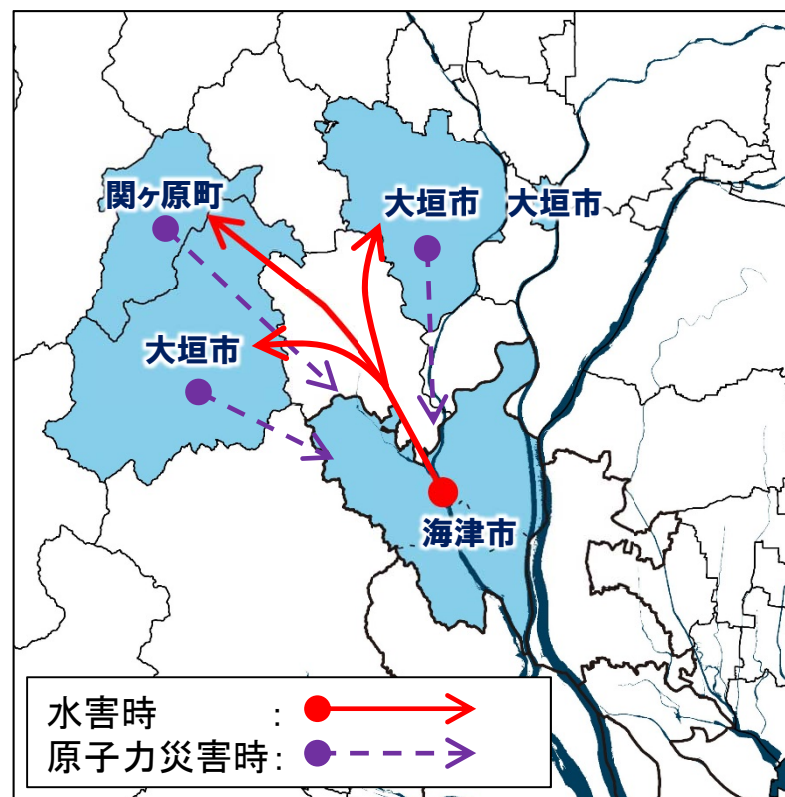
### シミュレーション上の設定条件

- 木曾岬町の全ての住民は、高速道路(新名神高速道、東海環状自動車道の開通予定区間も含む)を利用して、東員町といなべ市から無作為に指定した避難場所に広域避難する。
- 広域避難者の1割は、避難支援バスを利用する。

## 事例3 広域避難先の確保に向けた取り組み

### 原子力災害時の避難協定をきっかけに、広域避難の受入れの交渉

- 原子力災害時の避難協定を大垣市、関ヶ原町と締結
- 上記協定をきっかけに、水害時における海津市の広域避難の受入れ先の交渉
- ただし、大垣市、関ヶ原町も洪水、土砂災害の発生が生じる懸念



#### シミュレーション上の設定条件

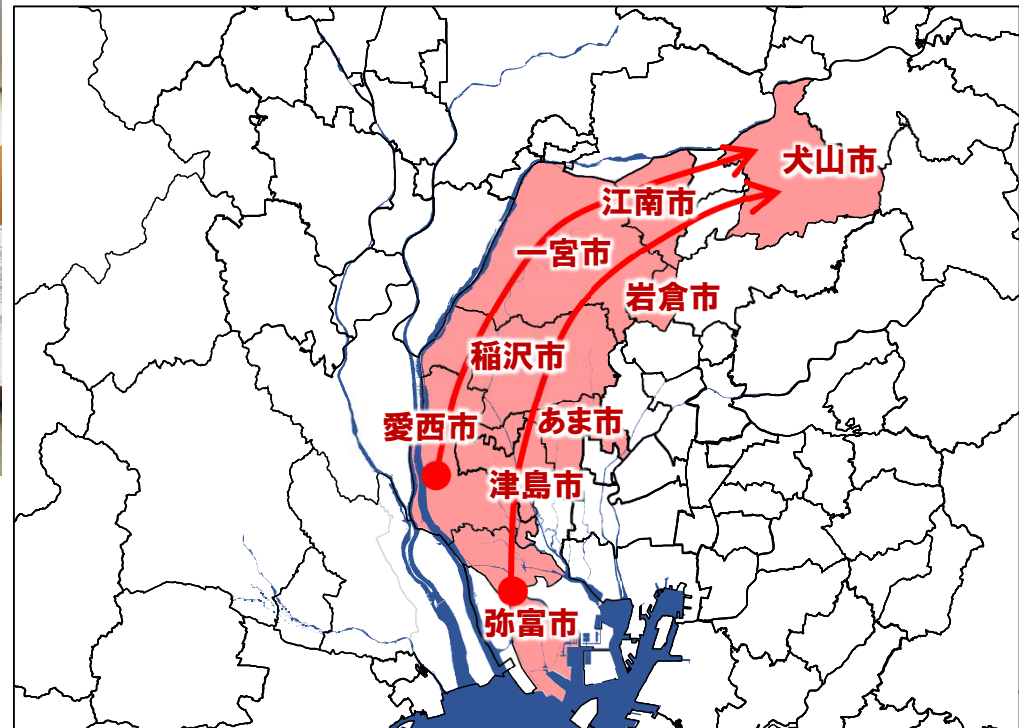
- 海津市の事例1の地区以外の住民は、大垣市、関ヶ原町から無作為に指定した避難場所に広域避難する。
- 広域避難者の1割は、避難支援バスを利用する。

## 事例4 広域避難の枠組みの形成

### 弥富市、愛西市等9市の応援協定(平成28年7月7日)



災害応援協定 調印式



- 広域避難先を定める枠組みが出来た。  
具体的な避難先は今後の協議による。

#### シミュレーション上の設定条件

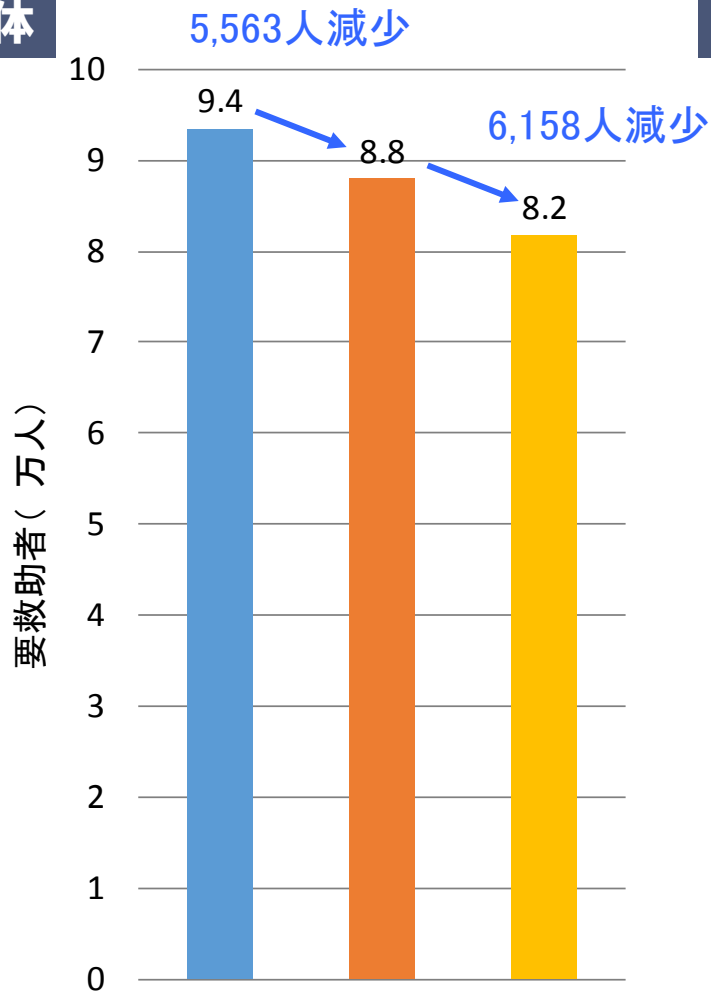
- 愛西市、弥富市の全ての住民は、稲沢市、一宮市、岩倉市、江南市、犬山市から無作為に指定した避難場所に広域避難する。なお、避難先を指定しない場合は、渋滞が深刻化し、被害が増大するおそれがある。
- 広域避難者の1割は、避難支援バスを利用する。



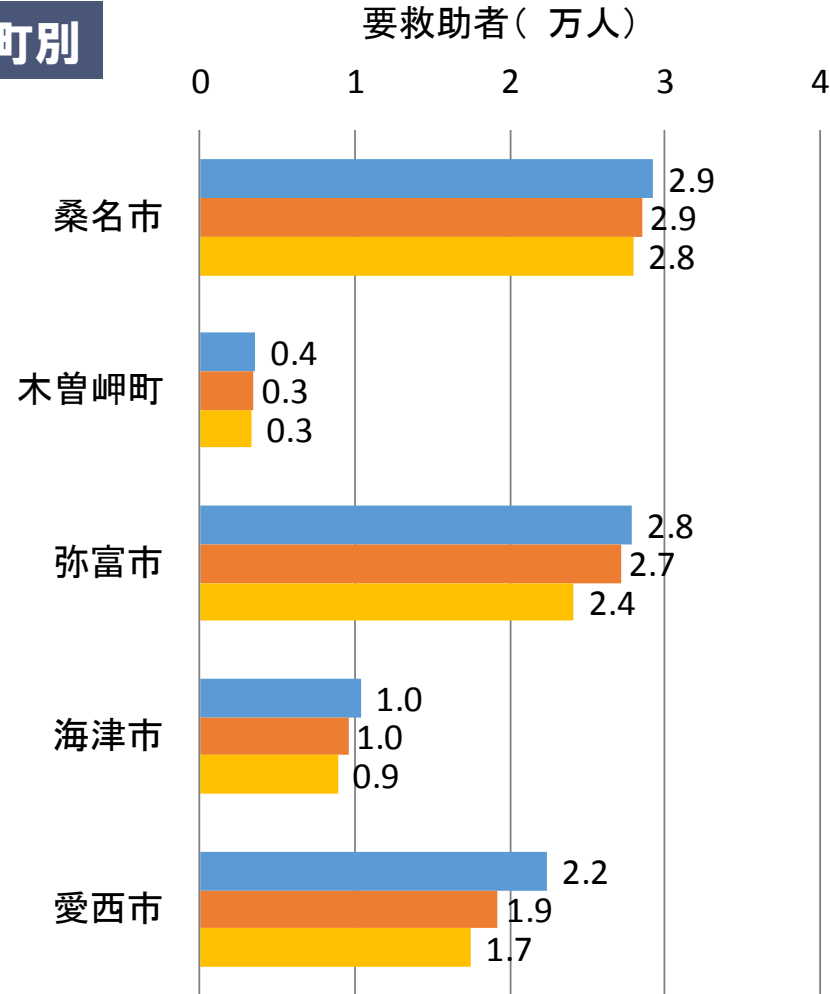
# 広域避難の実施(全体)と避難先の指定

■ 広域避難の実施と避難先の指定により、特に弥富市と愛西市で被害が減少した。

全体



市町別



基本条件の更新前

(犠牲者ゼロシナリオ)

基本条件の更新後

基本条件の更新

+ 広域避難の実施 + 避難先の指定